

さくら染め布の色彩分析

—第3報 葉の色の違いによる変化—

清 水 尚 子・山 口 律 子

第1報でサクラの小枝、第2報で緑葉を取り上げ、その染色性を検討したが、第3報では緑葉に資源の有効利用の観点から黄葉や紅葉を追加し、各々2回煮出した抽出液で絹布の浸染を行い、葉の使用量の違いが色素の抽出量や染色布の色度のバランスに及ぼす影響について比較検討を行った。その結果、生の葉で200%o. w. f. 以下の範囲の場合と乾燥した葉で50% o. w. f. 以下の範囲の場合において、先に抽出される黄色色素の割合が低く、後から抽出される赤色色素の割合が高い、黄葉の2回目の抽出液の使用が適しているという知見が得られた。

地域社会における食のやさしさとフード・セーフティネット・システムの構築

岡 井 康 二・岡 井（東）紀代香

現在我が国で緊急の課題となっているフードデザート化による買い物難民や格差拡大・貧困化による食事栄養難民などの地域社会の食環境の劣悪化の現状とその背景を分析し、さらにそれらの問題に対する解決策としてスーパー・コンビニの宅配サービス、地域住民による食事会や高齢者のための配食サービスやフードバンクなどの地域社会の食の様々なセーフティネット・システムの現状と課題、そしてその問題点について論じた。

フィリピンにおけるケアギバー養成教育に関する考察

—実習生受入れ先のナーシングホームと実習生へのインタビュー調査を中心に—

渋谷 光 美

日本は、経済連携協定（EPA）に基づく外国人介護福祉士候補者の受入れを、インドネシア、フィリピンから開始し、ベトナムからの受入れ準備も進めている。しかし、ケア人材送り出し国自体にもっと関心を寄せ、ケア現場の実情やケア人材養成教育に関する研究も、さらに推し進めることが重要ではないかと考える。フィリピンにおいて、ケアギバー養成教育課程と関わりのある方や、実習先であるナーシングホームの関係者及び、実習生へのインタビュー調査を行った。ケアの知識・技術・価値（倫理）が理解され、日常生活の援助場面での方法や困難性への対応策として具現化されている側面が確認できた。

運動・スポーツの意義と健康に関する調査

向 出 佳 司・橋 本 顕 寛

近年、中高齢期の生活習慣病が増大しているが、その要因の一つに運動不足が指摘されている。生活習慣病＝運動不足病と言われて以降、運動・スポーツへの関心や期待が高まっている。運動・スポーツを継続的に実践することによって、心身の健康増進、生き甲斐の創造などその効果は多岐にわたっている。

本調査は、学生の運動・スポーツの経験や実施状況を明らかにし、今後の生活習慣の見直しや健康の維持・増進に資する豊かなスポーツライフの実現に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

7-methylguanosineはB₂C₁細胞の分化を抑制する

南 野 勝 彦

生活習慣病の原因となるメタボリックシンドロームは、内臓脂肪の蓄積を基礎として高血圧、高血糖、脂質異常症を併発した病態である。内臓脂肪の蓄積の本体は、消化管周囲および内臓への中性脂肪の蓄積する脂肪組織であり、脂肪細胞の発生と分化についてメカニズムの解明が急がれている。本研究ではB₂C₁前駆脂肪細胞をもちいて核酸類縁体である7-methylguanosineの脂肪細胞の分化および成熟への影響について調べた。その結果、7-methylguanosineを添加した細胞では脂肪の蓄積が抑制され、また濃度依存的にGPDH酵素活性低下に影響を及ぼしている事が明らかとなった。